



## 2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月4日

上場会社名 エヌアイシ・オートテック株式会社  
 コード番号 5742 URL <https://www.nic-inc.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 西川浩司

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 藤井透

TEL 076-425-0738

四半期報告書提出予定日 2022年2月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	5,511	11.3	175	1.8	182	5.5	183	69.0
2021年3月期第3四半期	4,951	2.1	172	45.7	173	47.6	108	59.0

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 154百万円 (2.3%) 2021年3月期第3四半期 158百万円 (91.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	33.65	
2021年3月期第3四半期	19.91	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	8,798	4,565	51.9
2021年3月期	8,138	4,634	56.9

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 4,565百万円 2021年3月期 4,634百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		20.00		21.00	41.00
2022年3月期		20.00			
2022年3月期(予想)				21.00	41.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,700	30.8	530	143.1	524	137.4	341	150.1	62.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	5,500,000 株	2021年3月期	5,500,000 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	51,446 株	2021年3月期	51,446 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	5,448,554 株	2021年3月期3Q	5,448,563 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(会計方針の変更) .....	9
3. その他 .....	10
(1) 受注及び販売の状況 .....	10
(2) 役員の変動 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴って行われた緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が、ワクチン接種の普及等によるCOVID-19への感染拡大の鎮静化に伴い解除された結果、景気に持ち直しの動きが見られました。しかし、2021年末以降、新たな変異株（オミクロン株）による急速な感染再拡大が発生していることにより、設備投資の持ち直しに足踏みが見受けられる状況となりました。このような状況下で、依然として世界的な半導体不足は継続しており、半導体関連業種では活発な受注環境となっている一方で、原材料価格の高騰、半導体不足による制御機器等の納期遅延やCOVID-19がもたらしたサプライチェーンの寸断による調達部品の不足等の要因があり、製造業における生産活動は厳しい状況が継続しております。

このような状況において、当社主力製品である「アルファフレームシステム」の販売は、堅調に推移しましたが、FA装置関係につきましては、様々な引合案件があるものの、上記の原材料価格の高騰、制御機器等の納期遅延や調達部品の不足等の要因があり、依然として厳しい受注環境が続いております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、5,511百万円（前年同四半期比111.3%）、営業利益は175百万円（前年同四半期比101.8%）、経常利益は182百万円（前年同四半期比105.5%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は183百万円（前年同四半期比169.0%）となりました。

なお、連結子会社であるNIC Autotec (Thailand) Co., Ltd.の解散及び清算決定に伴う特別損失39百万円を計上しておりますが、同社の解散及び清算に伴い回収可能性があると判断した将来減算一時差異について繰延税金資産並びに法人税等調整額をそれぞれ104百万円計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益が増加しております。

また、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等の適用による売上高及び各利益への影響はございません。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

#### [アルファフレーム部門]

アルファフレーム部門におきましては、一般顧客向けの販売では、COVID-19の影響による営業活動の支障は徐々に解消されつつあります。また、オンラインによる営業活動において、その効果をより発揮できる当社独自の「カクチャ<sup>TM</sup>」及び「マーキングシステム<sup>TM</sup>」を活用した作図案件や新規引合い案件が堅調に推移いたしました。

大口顧客向け継続案件は、受注の波の関係で一旦落ち着きがあるものの、一般顧客向けの販売がCOVID-19発生以前の水準までに伸ばいたしました。

この結果、当部門の売上高は3,579百万円（前年同四半期比100.6%）となりました。

#### [装置部門]

装置部門におきましては、主要顧客である自動車部品製造企業での生産量は増加しておりますが、大規模な設備導入という段階には至っていないという状況下において、小規模案件ではあるものの、多くの安定した受注がありました。

この結果、当部門の売上高は741百万円（前年同四半期比119.8%）となりました。

#### [商事部門]

商事部門におきましては、主要顧客各社とも前年度においてCOVID-19の影響を受けて減少していた消耗品や治工具類の需要は安定的に推移いたしました。また機械設備関係については大型の受注があり、好調に推移いたしました。

この結果、当部門の売上高は1,190百万円（前年同四半期比153.6%）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産・負債・純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前期末と比べ659百万円増加し、8,798百万円となりました。これは主に、電子記録債権が494百万円、建設仮勘定が802百万円、繰延税金資産が104百万円、それぞれ増加した一方で、現金及び預金が359百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が137百万円、仕掛品が220百万円、それぞれ減少したことなどによります。

負債は前期末と比べ728百万円増加し、4,232百万円となりました。これは主に、電子記録債務が137百万円、長期借入金が868百万円、それぞれ増加した一方で、支払手形及び買掛金が309百万円減少したことなどによります。

純資産は前期末と比べ68百万円減少し、4,565百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上183百万円及び配当金の支払い223百万円があったことなどにより、利益剰余金が40百万円減少したことなどによります。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前期末と比べ359百万円減少し、1,101百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期間の817百万円のキャッシュ・インに対し、163百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは税金等調整前四半期純利益の計上による資金の増加143百万円や棚卸資産の減少による資金の増加176百万円があった一方で、売上債権の増加による資金の減少356百万円や仕入債務の減少による資金の減少171百万円、法人税等の支払額110百万円などがあったことなどが主な要因であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期間の112百万円のキャッシュ・アウトに対し、872百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは有形固定資産の取得による支出が860百万円あったことなどが主な要因であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期間の111百万円のキャッシュ・アウトに対し、676百万円のキャッシュ・インとなりました。これは長期借入れによる収入1,000百万円があった一方で、長期借入金の返済による支出65百万円や配当金の支払いによる支出222百万円があったことなどが主な要因であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の通期の連結業績予想につきましては、2021年5月7日に発表しました業績予想に変更はありません。なお、直近における原材料や制御機器等の高騰及び調達遅延等、不確定要素が多々重なっておりますので、今後の当社の生産状況及びお客様への納入計画等については、本資料の発表日時点において入手可能な情報をもとに精査を実施しているところであります。従いまして、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる可能性があり、業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに公表いたします。

ところで、昨今の経済状況は、デジタル化社会の構築が加速度的に進展したことにより、世界経済の糧である半導体不足が長引く状況となり、そこへCOVID-19の感染拡大によって一時的に落ち込んでいた世界経済が、POST & WITH COVID-19への対応が整いつつある先進諸国の経済活動再開により、急激かつ旺盛な需要回復を見せたことに対して、開発途上国等での生産・供給体制が整わない状況に至っており、この結果、世界的にサプライチェーンが寸断された状況に陥っております。

しかしながら、多くのグローバル企業はこれらを最大のビジネスチャンスとして捉え、革新的なサプライチェーンの構築に取り組んでおります。また、SDGsに関する取り組みとしてカーボンニュートラル化へ向けた生産設備の新設・更新等、今後は様々な生産設備投資が活発になっていくことが予想されます。従いまして、短期的には売上高の減少となる場合があるものの、今後3～4年先まで継続的な経済成長が見込まれることから、当社としても中長期的戦略は基本的に変更する必要はなく、むしろ非常に大きなビジネスチャンスとして捉えております。

このような状況を踏まえ、本日（2022年2月4日）別途公表いたしました「固定資産の取得（工場用地）」に関するお知らせのとおり、お客様のニーズにお応えすべく当社内での生産性向上及び効率化を図る上で、最適な作業環境を確保・整備することが重要となっていくことから、現在建設工事中の立山第3工場に隣接する土地を追加取得し、工場増設に備えることを決定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,461,114	1,101,595
受取手形及び売掛金	992,727	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	854,975
電子記録債権	1,128,961	1,623,343
商品及び製品	185,862	231,424
仕掛品	671,246	451,187
原材料及び貯蔵品	431,009	423,369
その他	37,020	86,722
流動資産合計	4,907,941	4,772,618
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,079,956	3,089,342
減価償却累計額	△1,451,057	△1,528,008
建物及び構築物（純額）	1,628,899	1,561,333
土地	733,647	733,647
その他	1,191,079	1,990,935
減価償却累計額	△730,979	△745,084
その他（純額）	460,100	1,245,850
有形固定資産合計	2,822,647	3,540,832
無形固定資産		
その他	37,048	41,680
無形固定資産合計	37,048	41,680
投資その他の資産		
その他	371,016	443,292
投資その他の資産合計	371,016	443,292
固定資産合計	3,230,712	4,025,805
資産合計	8,138,653	8,798,424

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	850,827	541,814
電子記録債務	810,474	947,524
未払法人税等	72,422	10,104
1年内返済予定の長期借入金	331,000	397,000
賞与引当金	69,278	35,329
製品保証引当金	1,119	1,329
関係会社整理損失引当金	—	2,607
その他	241,282	281,864
流動負債合計	2,376,405	2,217,574
固定負債		
長期借入金	803,000	1,671,500
退職給付に係る負債	222,265	228,078
その他	102,152	115,311
固定負債合計	1,127,418	2,014,890
負債合計	3,503,824	4,232,464
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	156,100	156,100
資本剰余金	145,636	145,636
利益剰余金	4,276,743	4,236,725
自己株式	△34,791	△34,791
株主資本合計	4,543,688	4,503,670
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	70,169	45,149
為替換算調整勘定	20,902	17,123
その他の包括利益累計額合計	91,072	62,272
非支配株主持分	68	16
純資産合計	4,634,829	4,565,959
負債純資産合計	8,138,653	8,798,424

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	4,951,479	5,511,811
売上原価	3,893,558	4,417,820
売上総利益	1,057,921	1,093,990
販売費及び一般管理費	885,309	918,239
営業利益	172,611	175,750
営業外収益		
受取配当金	1,280	1,618
仕入割引	3,238	3,732
固定資産売却益	—	4,336
その他	2,754	5,246
営業外収益合計	7,273	14,933
営業外費用		
支払利息	5,981	6,586
その他	646	1,297
営業外費用合計	6,628	7,883
経常利益	173,256	182,801
特別損失		
関係会社整理損	—	39,249
特別損失合計	—	39,249
税金等調整前四半期純利益	173,256	143,552
法人税、住民税及び事業税	65,576	53,419
法人税等調整額	△774	△93,191
法人税等合計	64,802	△39,771
四半期純利益	108,454	183,323
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△30	△48
親会社株主に帰属する四半期純利益	108,485	183,372



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	108,454	183,323
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	45,619	△25,020
為替換算調整勘定	4,097	△3,782
その他の包括利益合計	49,716	△28,802
四半期包括利益	158,171	154,521
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	158,199	154,572
非支配株主に係る四半期包括利益	△27	△51

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	173,256	143,552
減価償却費	160,069	176,567
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△26,540	△33,949
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	479	210
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	7,809	5,813
受取利息及び受取配当金	△1,287	△1,621
支払利息及び手形売却損	5,981	6,586
売上債権の増減額 (△は増加)	△44,057	△356,729
棚卸資産の増減額 (△は増加)	168,129	176,692
仕入債務の増減額 (△は減少)	77,594	△171,272
未払消費税等の増減額 (△は減少)	207,120	△3,282
関係会社整理損	—	39,249
為替差損益 (△は益)	481	△649
その他	58,744	△29,182
小計	787,781	△48,017
利息及び配当金の受取額	1,287	1,621
利息の支払額	△5,981	△6,586
法人税等の支払額	△31,605	△110,969
法人税等の還付額	66,149	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	817,631	△163,951
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△102,864	△860,409
無形固定資産の取得による支出	△4,924	△4,066
投資有価証券の取得による支出	△3,600	△3,683
その他	△1,522	△4,671
投資活動によるキャッシュ・フロー	△112,911	△872,829
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	200,000	1,000,000
長期借入金の返済による支出	△65,500	△65,500
自己株式の取得による支出	△19	—
配当金の支払額	△217,172	△222,906
その他	△28,422	△34,734
財務活動によるキャッシュ・フロー	△111,114	676,858
現金及び現金同等物に係る換算差額	539	403
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	594,146	△359,518
現金及び現金同等物の期首残高	671,945	1,461,114
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,266,091	1,101,595

#### (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識関係)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社グループは、従来は装置品製作請負に関して、進捗部分について成果の確実性が認められる装置品製作には工事進行基準を、それ以外の装置品製作には工事完成基準を適用しておりました。これを第1四半期連結会計期間より、一定の期間にわたり充足される履行義務は、製作期間がごく短い装置品を除き、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができる場合に、当該進捗度を見積り、これに基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。なお、履行義務の充足に係る進捗率の見積りの方法は、見積総原価に対する発生原価の割合(インプット法)で算出しております。また、当該進捗度を合理的に見積もることができない場合には、発生したコストの範囲で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高へ与える影響はありません。

また、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

なお、収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価会計関係)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

### 3. その他

#### (1) 受注及び販売の状況

##### ① 受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	3,516,747	100.4	1,314,063	116.7
装置部門	882,030	142.2	338,700	109.9
商事部門	888,500	92.0	329,148	59.0
合計	5,287,278	103.9	1,981,912	99.5

##### ② 販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
アルファフレーム部門	3,579,445	100.6
装置部門	741,411	119.8
商事部門	1,190,953	153.6
合計	5,511,811	111.3

#### (2) 役員の異動

本年4月1日付での取締役の異動、及び第51期定時株主総会に付議される取締役候補者

##### 1. 2022年4月1日付 取締役の異動の内容

氏名	新	現
野村 良一	専務取締役 技術開発・製造担当	専務取締役 技術開発担当
土山 邦夫	常務取締役	常務取締役 製造担当

##### 2. 第51期定時株主総会(2022年6月下旬開催予定)に付議される取締役候補者

候補者氏名	役付及び担当(予定)
西川 浩司	再任:代表取締役会長兼CEO
西尾 謙夫	再任:取締役社長兼COO 営業・経営企画担当
野村 良一	再任:専務取締役兼CTO 技術開発・製造担当
藤井 透	再任:常務取締役 管理担当
※ 伴 基	新任:社外取締役

(注) 1. ※は、新任社外取締役候補者

2. 「代表取締役の選定」及び「各取締役の役付及び担当」は、第51期定時株主総会終結後の取締役会にて正式決定予定。

##### 3. 取締役の退任(第51期定時株主総会(2022年6月下旬開催予定)日付<総会終結時>)

退任取締役	退任時までの役付
西川 武	取締役社長
土山 邦夫	常務取締役

役員の異動につきましては、本日(2022年2月4日)別途公表の「役員人事に関するお知らせ」をご参照願います。